

II

アゾローチカリキュラム



# 1 プログローチカリキュラム作成のポイント

プログラムは、就学前の幼児がスムーズに小学校の生活や学習に適応できるようにするとともに、幼児期の学びを小学校教育につなげるために作成する、幼児期の教育終了前(5歳児の10月～3月)のプログラムです。

小学校のカリキュラムの先取りをするのではなく、就学前までの幼児期にふさわしいものにするのが大切です。

プログラムを作成する際「児童期のスタートにおける幼児の姿」を具体的にイメージし、「学びの芽生えの時期(幼児期)」と「自覚的な学びの時期(児童期)」という発達段階の違いからくる「遊びの中で学び」と「各教科などの授業を通して学び」という「学び方の違い」を理解し「幼児期の教育の特性」を生かしたカリキュラムにすることが重要です。

18・19ページの「幼児期の教育において小学校の学びの基礎となる経験」は、プログラム(20・21ページ)に別添)や短期の計画等を作成する際、幼児の実態に添って、より具体的な活動を設定するための参考資料としてください。ただし、ここに示した経験すべてを活動に取り入れるということではありません。また、「幼児期の教育において小学校の学びの基礎となる経験」を、次に示す6つの配慮や工夫に基づき、幼児の実態に合わせて経験させることが、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続につながります。

## 1 1日の時間の工夫

小学校教育は、国語や算数、道徳などの各教科・領域中心の授業が組み立てられ、1時間毎にねらいを達成するための学習活動があります。また、授業の間に休み時間があるという生活です。

それに対し、幼児期の教育において、子どもの生活の基本的単位は1日です。朝、昼間してから降参するまでの生活が充実したようになるように、環境を構成し時間を活動や幼児の興味・関心に添って配分しています。

このような、幼児期の教育と小学校教育の違いから生じる子どもの戸惑いに対応するため、活動を行うにあたって、次の3つの配慮や工夫が大切になります。

### (1) 活動への円滑しをもつ

登降園時の活動や当番活動、昼食の準備・片付けなど、一日の生活の流れが分かり、一つ一つの活動に見通しと期待をもつて取り組めるようにします。

また、活動の切り替えと同時に、気持ちも切り替えられるよう支援します。

### (2) 時間を意識した生活をする

カレンダーや模型の時計などを活用し、月・日にち・曜日、時間の流れ、数字や文字に対する興味・関心を高めます。

### (3) 協同して遊ぶ

修了近い時期には、小学校での生活に配慮して、学級の友達やグループの友達と同じ目的や挑戦的な課題に向かい工夫したり、協力したりする活動を意図的に取り入れるようにします。

## 2 活動の工夫

幼児期には、保育者や友達と生活する中で、次第に互いの心情や考え方などの特性に気づき、その特性に応じて友達とかわり、一緒に活動することを楽しむようになります。また、友達とかわりながら体を動かしたり、身の回りの物や材料、用具を遊びに取り入れられたり、生活に生かそうとしたり、表現しようとしたります。

このことが、新しい環境(小学校生活)での友達と一緒に学習する楽しさや学習意欲の向上につながります。そこで、次の5つの配慮や工夫が大切になります。

### (1) 戸外で体を動かす

運動会などをきっかけに、外で体を動かす気持ちよさや楽しさ、心地よさを味わうことができます。併せて、大勢の友達との約束やきまりのある遊びを行い、その楽しさを継続できるようにします。

### (2) 友達と一緒に遊ぶ

就学前健康診断を境に小学校就学に向け、自分の思っていることを相手に伝えたり、相手の思っていることに気付いたりしながら、何事にも意欲的に取り組むようになります。そのような経験を通して、自己を発揮する姿や自己抑制する姿を支援します。

また、友達と目的を共有し役割を分担して一緒に遊ぶことを通して、充実感や達成感を味わい、意欲的に生活できるようにします。

### (3) 自然の中で心を動かす出来事に触れる

季節ごとの自然の素材やその性質、自然現象、物の仕組みなどを遊びに生かすことができますようにします。

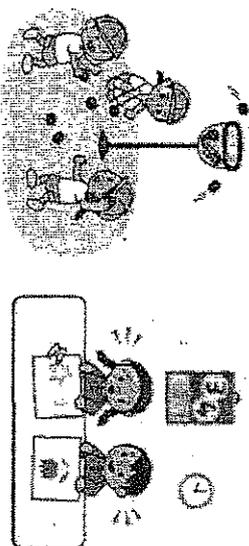
「幼児期の姿」(24ページ)「泳」(泳)に取り上げられているように失敗を通して学びを認めます。

### (4) 興味や関心をもつたものに取り組む

友達と一緒に遊ぶ中で、考えたり試したり工夫したりする経験が十分できるようにします。

### (5) 自分の思いを表現する

友達と互いに表現し合いながら、歌や動き、描画、言葉など様々な表現をすることのおもしろさを感じることができるようになります。



### 3 人間関係についての配慮

幼児期の教育では、幼児の主体的な活動は「友達とのかわりを通してより充実し、豊かなものとなる。(幼稚園教育要領解部45)」と考えられています。特に5歳児10月頃から人とのかわりが急速に広がり、その中で関係が深まり、友達の話や話を聞いて「自分の課題」として考えることなどができるようになります。こうした経験を豊かに重ねていくことが、小学校生活での人間関係づくりの基礎になります。

- (1) 友達と共に生活する充実感を味わわせる  
楽しい友達と遊ぶ機会を確保し、一緒に遊ぶ機会を確保したり、喜びを分かち合ったりする経験を積み、人間関係を築くようになります。
- (2) 幼稚園・保育園と小学校との交流  
学年別健康診断でかわる高学年の児童や、生活科・総合的な学習の時間や低学年・中学年の児童と積極的な交流を図り、自分の成長に気づきと期待をもち、小学生に対するあこがれをもち、成長を喜びます。
- (3) 地域との交流  
行事などを通して、年少児や地域の人々とのつながりや機会を確保し、いろいろな人に関わりをもてるようにします。

### 4 家庭や小学校との連携

小1プログラムなど、学校生活への適応を図ることが難しい児童の実態があることを受け、幼児期の教育と小学校教育との連携や家庭との連携を図り、その課題をプログラムに取り入れ、成果をスタートプログラムに生かしていくことが大切です。

- (1) 自分自身は自分で  
「もうすぐ1年生」や「1年生での自分」のめばえを「活用し、家庭と連携を図り、子どもの育ちについての課題や今後の見通し、そのために必要な取組を共有します。」  
また、就学前には、基本的な生活習慣を身に付け自分のことは自分でできるように、家庭との連携をさらに密にし、子どもの育ちを確かめます。
- (2) 生活に必要な活動を自分で  
家庭との連携を図り、「家の仕事を任せる」など自己肯定感を味わわせる経験を積み重ねます。
- (3) 保護者や小学校との連携  
保護者や個人面談などで、保護者に「小学校入学までの生活の見通しを伝えます。保護者の不安に対しては、小学校と連絡を取り合って対応できるように体制を整えます。」

### 5 きまりへの適応と安全への配慮

幼児期は、保護者や友達と共にする集団生活を通して、体験を重ねながら規範意識が形成されていきます。その際、幼児が保護者との信頼関係に変えられ、友達とのかわりの中で、自分の思いが受け入れられないことがあったり、折り合いをつけて遊んだりする経験を重ねていくことが大切です。

- (1) 規範意識を高める  
友達と集団で生活する中で、共同で使うものを大切にすることや、順番を守るなど、きまりを守ると友達と楽しく過ごせる体験を積み重ね、きまりやルールが必要なことや大切さを感じて身に付けられるようにします。
- (2) 安全に気を付けて行動する  
遠足などで公共の施設を積極的に利用したり、交通ルールを守って歩いたりすることで、公共の場での行動の仕方などを知らせます。

### 6 小学校生活に向けての配慮

幼児期の生活や経験が小学校でのどのような生活や学びにつながっているか、また、乗り越えなければならない段階や、解消しなければならない段階は何かなどを、見通すことが大切です。

- (1) 小学校の施設に慣れる  
園外保育の際、連携先の小学校にトイ・林檎に立ち寄りたり、交流の際、積極的に小学校に出かけたりするなど、主体的に小学校に慣れるようにします。
- (2) 「目指す子ども像」を共有する  
幼稚園・保育園と小学校で「目指す子ども像」の共通理解を図ります。特に児童期のスタート時の子どもの姿の具体的なイメージを共有します。
- (3) 幼保小情報交換会を行う  
幼児期における指導の経過をまとめ、小学校へ継ぎます。その際、「もうすぐ1年生」や「1年生での自分」のめばえを小学校と共有し、子どもの育ちを確かめます。

アドバイザーカリキュラムの作成の際、本プログラムのほか、次の資料を参考にしてください。

- ① 「もうすぐ1年生」(平成25年 韮崎市)
- ② 「接続期プログラム」(平成24年3月 埼玉県教育委員会)
- ③ 子育ての目安「3つのめばえ」(平成23年3月 埼玉県教育委員会)
- ④ 幼稚園教育要領及び解説(平成20年10月 文部科学省)
- ⑤ 保育所保育指針(平成20年8月 厚生労働省)
- ⑥ 埼玉県幼稚園教育課程編成要領(平成21年3月 埼玉県教育委員会)
- ⑦ 埼玉県幼稚園教育課程指導資料(平成22年3月 埼玉県教育委員会)
- ⑧ 埼玉県幼稚園教育課程評価資料(平成23年3月 埼玉県教育委員会)
- ⑨ 埼玉県幼稚園教育課程指導実践事例集(平成24年3月 埼玉県教育委員会)

